

所長の模型部屋（第14回）

皆さん、こんにちは。前回から始めた自衛隊戦車歴史シリーズですが、今回はその2回目、M24戦車、M4戦車とともに自衛隊の戦車部隊の礎を作った・・



M41戦車です

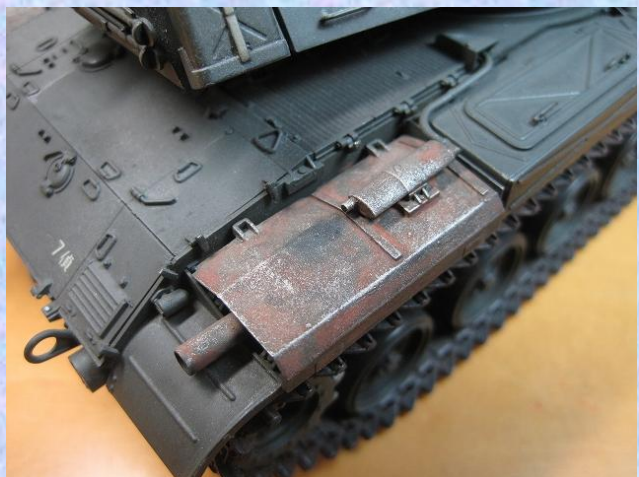
M41は、私が子供の頃から高田駐屯地の記念日の時に、相馬ヶ原の12戦車大隊の車両を見たのが最初でした。長い間使われていたので馴染みは深いです。中は以外に広く、大人でも立って頭が届かなかったのを覚えています。前回のM24の時と同様に、大先輩の戦車乗員はこの戦車に育てられました。機動性、故障の少なさ等、タフな戦車で、土工具特に戦車パールはとても硬い材質を使っており、いくら叩いても変形せず、戦車を整備するときは重宝しました。今でも一部の整備工場で使用され続けています。

オートマで操縦しやすく加速も早く、軽快に走ったそうです。マフラーが高温になり、夜間集結地に入ると真っ赤になって目立ちました。「パンパンパン・・・」と高い音の独特な排気音を立てたそうです。

キットはOKUNO社の「M41自衛隊仕様」です。第7偵察隊勤務時に、隊の倉庫を整理した際、昔の写真が沢山出てきて、その中で同偵察隊で使用していたM41の写真があり、諸先輩方の懐かしい昔話も参考にして製作しました。



製作にあたっては当然リアリティーを追求するのですが、素人の方の指摘は鋭く、完成した作品を隊に持って行ったら、「小隊長、ここのところ全然錆びているように見えないですよ・・・」と、後輩の隊員に言われムキーン！と意地になりながらウェザリングを繰り返しました。



どうですか？このサビ具合。パステルコンテの赤茶色を荒くアクリルレッドブラウンで溶いて塗って、乾き際にパステルの粉を振りかけます。乾いた後にアクリルフラットアルミをドライブラシして、銀の塗装膜の下からサビが発生して盛り上がった感を出してみました。煤はパステルの黒です。



キットはストレート組で十分でした。部品構成も文句ありません。作りやすいキットでした。何よりも砲身の防塵カバーが樹脂製で付いているのが良いですね。タミヤのキットも作ったのですが、ティッシュペーパーでカバーを苦労しながら作りました。またいずれ紹介したいと思います。



車体はアクリルタミヤのオリーブドラブで、米軍色に近いイメージにしました。キャタピラはキットの物をそのまま使用しました。ブラウンを吹き付けた後に裏表両面のゴムバット部をNATOブラックで塗っています。



重機関銃は、車長席前方と横に取り付けられますが、前方に取り付けることの方が多かったようです。

さて、第3弾は、当然M4戦車といきたいのですが、現在作成中のため、今回は・・・



です。それではまた。